



## — 卯野(うの)修三 議員活動報告 —

(1959年(昭和34年)1月3日生まれ 寺井高校卒業)

拝啓 今年の夏は猛暑で、お身体の管理が大変であったと拝察いたします。

さて、来年(2024年)、春3月16日の北陸新幹線敦賀延伸(県内全線開業)まで、あとしばらくとなり、能美市にとっても千載一遇のチャンスを活かすべく、しっかり取り組んでまいります。

今回の第12号は、令和5年6月議会と9月議会の一般質問の内容を掲載しましたので、ご一読いただければ幸いです。 敬具

## 「勇気・元気・やる気」+「根気・突破力」 能美市議会議員 卯野 修三

平成20年 ふるさと小松検定、平成28年のみ検定(上級)、令和2年 金沢検定、令和3年 加賀ふるさと検定、令和4年 白山検定、以上の南加賀地域の検定試験、合格できました。



◆令和5年7月  
法大の先輩・油野和一郎  
かほく市長と懇談(かほく市役所)



◆令和5年7月  
法大の先輩・木下敬夫  
七尾市議会議長と懇談(七尾市役所)



◆5月31日  
珠洲市正院町へ  
地震災害ボランティアへ



◆7月15日、17日  
津幡町へ水害ボランティアに  
2回行ってきた



◆7月9日  
第51回石川県ろうあ大会へ  
(津幡町シグナス)



◆8月23日  
霊峰白山登山(4回目)日帰り  
別当出合6:45発→室堂11:00着



◆9月8日  
鉄道写真家・中井精也さんの  
「ゆる鉄」画廊へ(金沢市)



◆9月17日  
第43回能美市民 歌謡の集い(てらい  
愛唱会、寺井地区公民館)で来賓挨拶



◆9月24日  
寺井町防災訓練に  
防災士として参加



◆10月28日 南加賀はひとつ!  
第36回木場湯マラソン(6.4キロ)に  
参加予定で練習(6月から30回走った)

## 令和5年6月 議会・定例会 一般質問 一問一答形式 6月19日

質問

### ◆ふるさと納税の方向性について◆

①住民税・税額控除と、入ってきた寄附金との差額および事務経費を勘案した全体の収支を問う。

答え

新屋 市長室長

2021年度のふるさと納税寄附額 7,845 万円余。能美市民が他の自治体にふるさと納税され、個人市民税控除額が 7,000 万円余で差引 845 万円余。そして返礼品、広報、決済にかかわる経費 3,267 万円余でマイナス 2,422 万円余。しかし減収額の 75%は、能美市が普通地方交付税の交付団体であるため減収分は補われることになり、収支は収入が上回っております。



質問

②能美市として、財政の健全化のためには、寄附に対する返礼品の金額を3割から2割に。ネットなどの仲介業者に払う経費を減額するために、その仲介業者を数社に絞るなどの考えはないのか。

答え

井出敏朗 市長

ふるさと納税の国の抜本的な制度の見直しがない限り、地元の魅力ある返礼品をさらに掘りかえし、ネットでの広告も寄附者の増加につながる効果もあると捉えており、能美市の応援者となっていただけるようシティプロモーションを強化し寄附額の増加をはかってまいります。

再質問

③長野県があえて収支改善策の1つとして返礼品を設定しないふるさと納税を実施し、寄附金の使い道として、障がいにかかわらず観光を楽しめるユニバーサル・ツーリズムや伝統工芸品の応援に使ったり、そのサイトにコメントを寄せたりできるなど、寄附者と県が双方向で創りあげる共創のふるさと納税については?

答え

井出敏朗 市長

ふるさと納税をされる方は、魅力あふれる返礼品を求める傾向もあり、返礼品をなくした場合、寄附額が減少することも危惧されます。今後も知恵と工夫でふるさと納税のあり方も参考にしていきたい。



質問

### ◆市外高校への通学交通費補助について◆

市内の高校生の85%が市外の高校へ通学している現状をふまえ、通学補助費の考えを問う。

答え

企画振興部 中川部長

1~2月、高校の保護者会等が手配するスクールバスの利用に2万円を上限として利用料金の半額を補助し、昨年は2校から申請があり、124名の生徒に補助した。現状、居住地から「のみバス」を利用しやすいよう朝夕のダイヤ編成で高校生用の通学定期券を設けて交通費の負担軽減を図っている。

質問

### ◆がんに対する備えの強化について◆

①国民2人に1人がかかるかもしれないという「がん」の検診料の値下げとPET補助復活について問う。

答え

健康福祉部 川本部長

受診料軽減について、集団検診では県内の他自治体と比較して受診料を安く設定。医療機関検診では保険者努力支援制度の活用により受診料を軽減している。PET検診については、過去に市民の利用が少なく助成制度を廃止した。又、本来がんの治療で行われる精密検査であり、国の推奨する「がん検診」ではないことから現時点では費用助成は考えていない。



質問

②新たに、がん患者を雇用する企業及びがん患者への就職支援奨励金制度の創設の考えを問う。

答え

産業交流部 谷田部長

がんを抱えながら就業を継続している人は、2019年では約44万人余とのこと。現在、東京都では治療と仕事の両立について支援する「就業支援奨励金」を支給する制度がありますが、個人ごとに症状や治療方法が大きく異なり、申請に至る事業主は限定されると推測されます。但し、がん患者の就労支援を行い、安心して働ける環境を整備することは、大切なことでもあります。今後、市内の企業の職場環境の実態や企業の意向、そして他の自治体における各種支援や奨励制度の導入状況を調査してまいります。

(裏面もご覧下さいませ)



「ふるさとに 感謝の気持ち 倍返し」「離れても ふるさとつなぐ かけはしに」  
「寄附なのか 税金なのか わからない」 これは、ふるさと納税の川柳です。  
(参考) 令和3年度 全国自治体寄附金ランキング1位は、紋別市152億円で、令和5年度の一般会計は前年度比37%増の402億円に。2位 都城市146億円。3位 根室市146億円など。

質問

◆EBPM（証拠に基づく政策立案）の推進について◆

①ビッグデータの活用ならびに EBPM について、市の見解とこれまでの取組について問う。

答え

企画振興部 中川部長

これまで地域経済分析システム（リーサス）を活用して、地域経済循環の状態を把握して、地域事業者へのアドバイスをした。又、能美スマート・インクルーシブ構想の立案でも、地域幸福度指標である「ウェル・ビーイング」指標を活用し、又、能美市の創生総合戦略を改訂する際に、客観的に測定できる「ウェル・ビーイング」指標と、市民の主観的なアンケートデータを用いて、EBPMを推進していきたい。そして全ての市職員がデータ活用のノウハウを身につけていきたい。

質問

②能美市の政策立案はEBPMでの予算編成になっているか。

答え

総務部 橋場部長

特に政策的経費では決算統計ならびに市民満足度調査をふまえ現地現場主義で事業の予算化を行った。又、コロナ禍ではこれまでの考えを一旦リセットして新しい生活様式への予算立案にも移行し、予算執行後も成果が得られているのか、達成度を確認し、PDCA（プラン・ドゥ・チェック・アクション）サイクルを廻しながら行政評価を実施した。今後も合理的かつ効果的な予算編成に取り組みたい。



質問

③副市長は県庁で数多くの政策立案をされた経験から、今後どのように推進していくのか。

答え

福田年通 副市長

市民の行政ニーズが多様化・高度化するなか、限られた人材・財源・資産を有効活用し、行政課題に対応。市長の政治姿勢である現地現場主義・市民ファーストで市民の声を聴き、政策立案は可能な限り各種データやアンケート調査を分析して効果的・効率的な政策立案が重要。近年のICT技術の進展により、能美スマートインクルーシブ構想立案でも医療介護・健康のデータを活用し、どこに、どのデータが存在し、そのデータをいかに分析して政策に反映させていくのかが重要であり、そのためにもデータを活用してのEBPMの推進力が必要と考えます。

再質問

④いま一度、県庁での経験から、特に能美市で力を入れていきたいことは？

答え

福田年通 副市長

データが大きくなってきているので、必要なデータを精査して客観的に分析していきたい。

質問

◆市のPR戦略と観光戦略について◆

①バック・トゥ・スクール(BTS)の導入はできないか。

県外の大学等で学びUターンした市民が母校を訪問し、能美市をPRし、合宿・旅行の誘致や移住定住の促進につなげる

答え

新屋 市長室長

市民が市の魅力を再認識し、ふるさとへの愛着や誇りをもって、市民自らが行動するという「市民力」を活かしたPR活動と思うが、学校訪問時の旅費などの経費の課題もあり現時点では難しい。今後、関東・関西・東海の能美市の会のみなさん、観光大使・観光特使の協力を得ながら多くの人に選ばれる市となれるよう、SNSを通じシティプロモーションを強化していきたい。

質問

②観光大使・観光特使の現状と展望を問う。

答え

産業交流部 谷田部長

現在、名誉観光大使1名、観光大使31名、観光特使12名の44名で名刺を200枚渡している。本年9月30日に根上タントにて、観光大使にも登場いただき、3回目のコンサートを実施した。今後、ホームページのなかで観光大使・特使の活動状況を掲載できないか検討していく。



質問

③北陸新幹線県内全線開通前に、観光ボランティアガイドの養成は急務であるが見解は？

答え

産業交流部 谷田部長

能美市を訪れた方々の満足度を高めるために、再訪を促すためにも必要なことは承知している。但し、観光ボランティアガイドには、観光客とのコミュニケーション能力、ホスピタリティ（おもてなし）能力、安全管理能力などの養成が必要で、又、能美市への観光客は休日と平日の人数格差もあり、市として実施は課題が多い。今後、能美市観光物産協会と共に、のみ検定上級合格者や学芸員の活用を含めて市民力を活かした交流機会の創出につとめたい。

質問

④シェアサイクルの導入ができないか。

答え

産業交流部 谷田部長

現在、能美ふるさとミュージアムにレンタサイクルがあるが需要は伸び悩んでいる。シェアサイクルについては、全国324都市が導入しているが採算性の確保、利便性の向上、安全性の確保（特にヘルメット着用の努力義務化された）が求められている。近隣の小松市では、令和5年3月に導入で、これまでに2,200人が乗車して利用回数が3,000回とのことですが、駅と公共施設、駅とモールなどの利用が多く、遠い距離の観光地間の利用は少ないとのこと。今後も小松市の状況を確認していきたい。

質問

◆不妊治療について◆

昨年4月に不妊治療費の保険適用が拡充されることになったが、メリットと効果は？

答え

健康福祉部 川本部長

体外受精など高度な生殖医療が保険適用の拡充により、経済的負担が軽減された。今後、不妊に関する長期の治療を経済的な理由で断念することが避けられ、不妊治療費の保険適用を積極的に受ける夫婦が増え、子どもさんが産まれる確率が高まり、長期的に人口の増加も期待できる。



今年のNHK大河ドラマは「どうする家康」ですが、本日の一般質問は「どうする能美市」で、質問をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

能美市議会議員 卯野 修三

〒923-1121 石川県能美市寺井町ラ16  
TEL (0761) 58-5811 FAX (0761) 58-5812

メルアド uno0905@tvk.ne.jp



うの修三

検索



卯野修三